

西水美恵子著「国をつくるという仕事」英治出版 2009年4月20日刊を読む

貧困のない世界をつくるために

1. (1) あれは、たしか 1980 年の春のことだった。当時、経済学を教えていた米国プリンストン大学の、研究室での昼下がり。訪れる学生の姿もなく、論文の構想を練るには最適で、大好きな時間だった。その静寂を、1本の電話が永遠に破った。
  - (2) 世界銀行のチーフ・エコノミストとして、開発政策と研究所を担当していた著名な経済学者、ホリス・チェネリー副総裁からだった。その年の夏から始まるサバティカル(研究休暇)の一年を、世銀の研究所で過ごさないかという誘いだった。
  - (3) 経済開発論は部門外もいいところで、興味さえなかった。首都ワシントンにいる夫の勤務先でもある IMF(国際通貨基金)は、熟知していた。が、IMF と姉妹機構の世銀が、いったい何をする銀行なのかさえ知らなかった。躊躇して、しばらく考えさせてもらったが、「好待遇で好きな研究に没頭できるうえ、単身赴任の時間的なロスがない一年間は、断るには良すぎる」と答えた。
  - (4) チェネリー副総裁は、そんな不真面目な私を笑いながら、契約にひとつの条件を出した。「一国でもいい。発展途上国の民の貧しさを、自分の目で見てくるように……」
2. (1) プリンストンの修士課程を終えて世銀で活躍していた教え子が、それならエジプトがいいと誘ってくれた。彼が率いる開発 5 年計画調査団に同行して、首都カイロへ飛んだ。
  - (2) 週末のある日、ふと思いついて、カイロ郊外にある「死人の町」に足を運んだ。邸宅を模す大理石造りの霊廟がずらりと並ぶイスラムの墓地に、行きどころのない人々が住み着いた貧民街だった。

その街の路地で、ひとりの病む幼女に出会った。ナディアという名のその子を、看護に疲れきった母親から抱きとったとたん、羽毛のような軽さにどきっとした。緊急手配をした医者は間にあわず、ナディアは、私に抱かれたまま、静かに息をひきとった。
  - (3) ナディアの病気は、下痢からくる脱水症状だった。安全な飲み水の供給と衛生教育さえ

しっかりしていれば、防げる下痢……。糖分と塩分を溶かすだけの誰でも簡単に作れる飲料水で、応急手当ができる脱水症状……。

(4) 誰の神様でもいいから、ぶん殴りたかった。天を仰いで、まわりを見回した途端、ナディアを殺した化け物を見た。きらびやかな都会がそこにある。最先端をいく技術と、優秀な才能と、膨大な富が溢れる都会がある。でも私の腕には、命尽きたナディアが眠る。悪統治。民の苦しみなど気にもかけない為政者の仕業と、直感した。

脊髄に火がついたような気がした。

3. (1) 帰途の機上では一睡もできず、自分が受けた教育は何のためだったのか、何をするために経済学を学んだのかと、悩んだ。ワシントンに近づき、機体が着陸体勢に入っても、鬱々としたままだった。が、車輪がドシンと音を立てて滑走路に接した瞬間、目の奥に火花が散った。結論が、脳に映った写真のように、はっきり見えた。学窓に別れを告げ、貧困と戦う世銀に残ると決めた。

(2) 契約を延長してくださいと頭を下げに行ったチェネリー副総裁は、「薬が効きすぎたかな」と、また笑った。「ナディアの死を無駄にしないように」と添えてくれた彼の言葉は、いまだに脳裏に焼き付いている。

(3) 「世銀の使命は、貧困のない世界をつくること。この使命を背負う仕事の究極は、正義の味方になることだ。政治力のない貧民のために正しいことを正しく行う、勇気あるリーダーたちの味方になる。この精神を本気で貫かないと、世界一流の知識や技術の提供が無駄になる。融資は途上国の借金を増やし、国民を苦しめるだけに終わる。やる気があるようだな」

(4) 転職の報告に、父が怒った。「教壇の神職から、金貸しになり下がるのか！」

4. (1) それからの23年間は、「貧困のない世界をつくる」夢を追う、毎日だった。

(2) いざ入行してみて、チェネリー副総裁が諭した「正義の味方」の精神が、多くの世銀職員の姿勢に浸透していると知り、驚いた。自然にナディアが仕事の尺度になった。何をしても、ナディアに問うのが習慣になった。「生きていたら喜んでくれるかしら。あなたを幸せにできるかしら……」

(3) さらに驚いたのは、世銀を築いた国際法が、その精神を保護していることだった。キュ

ーバと北朝鮮を除く全世界の加盟国が調印した、世銀の「憲法」ともいえる国際条約に、守られていた。

P.3 ~ P.6

[ コメント ]

国家の安全保障と同様に大切なのが一人一人の人間に着目した「人間の安全保障」。世界銀行副総裁西水美恵子氏の「貧困のない世界をつくる」ための活動の原点ともなったエジプトでの体験に胸を打つ。

- 2009年4月19日林明夫記 -